

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：アド・アール株式会社

定 価：一部 30 円



2017年7月20日

第 410 号

初めてのまちを訪ねて

理事長 稲松義人

6月末、日本キリスト教団の熊本・大分被災教会支援委員会の委員として、大分県のいくつかの教会をお訪ねする機会があった。最初にお訪ねしたのは、竹田教会といい、大分市から、阿蘇を抜けて熊本へ続くJR豊肥線沿いの道で車で1時間あまり走ったところにある山間のまちの教会であった。ここにある竹田城は、滝廉太郎の「荒城の月」のモデルとなった城跡として有名である。

教会を訪ねて、最初に目についたのが隣接する小羊保育園の看板であった。日本の教会には隣接に幼稚園や保育園が併設されているところが多く、竹田にある小羊保育園も、今は社会福祉法人となっているが、最初は竹田教会の附属施設として開園されたのだろう。

同じ「小羊」という名称に少なからず親しみを感じつつ、教会を見せてもらった。礼拝堂は、道路に面した5m程の高さの石組みの上に建てられており、この石組みが崩れるようなことがあると大きな被害になるだろうと心配されたが、今回損傷のあった外壁については、必要な補修がなされたとのこと、ご案内くださった牧師先生は、決して十分とは思えない教団からの支援を感謝してくださった。その後、せっかくだからと、牧師

先生が、近くにある江戸時代に隠れキリシタンたちが密かに守ってきた山中の岩をくり抜いた洞窟礼拝堂をご案内くださった。禁教令のもとで過酷な環境に置かれ、250年以上も信仰を継承してこられた人たちのことを思うと、小さな逆境に心を乱されがちな日常を反省させられる思いがした。

資料を見ると、現在の竹田教会は1915年に創立されている。それでも既に100年以上が経過していることになる。大正、昭和、平成と、その時代の社会的な環境の中で、牧師さんと信者さんは入れ代わってきたのだろうが、この教会の人たちは、この町に暮らす人たちを支え、ともに生きていこうとしてきた。キリスト教の教えを伝える教会と、地域の人たちのニードにこたえる社会事業とでは役割が違うが、大切にすべき理念を受け継ぎ、そこに関わる人が歴史を刻んでいくことは同じである。

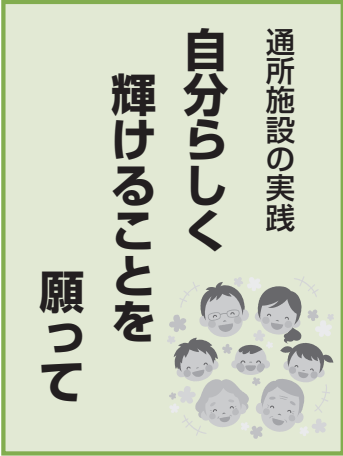
小羊学園は、昨年創立50周年を迎えたばかりだ。これから60年、70年、100年と存続していくために、地域に生きる人たちのニードにこたえるという姿勢は崩してはならないのだと思う。

しかし、社会福祉の分野だけではなく、さまざまな分野において行政が担う社会政策は、刻々と変化する社会への対応だと思えば、そこには政策を立案する人と、それを運用する人と、その制度のもとで事業をする者がいる。社会福

祉について、これまで政策を立案するのは国であり、運用するのが地方行政であり、社会福祉法人等が実際の事業が担ってきた。政策立案の一部と、その運用についての判断の多くが地方に移ってきている。また、事業者は、社会福祉法人に限らず、さまざまな事業主体が参画してきている。しかし、社会福祉事業は、その地域に生活する人たちの本当のニードを捉えて政策立案され、運用され、事業を進めなければならない。

そのために地域のニードを思い、当事者たちの現状をよく把握して政策立案される方たちの努力に敬意を表したい。また制度に沿った公正な判断をしつつ、一人ひとりの命の尊厳を思い、個別の事情を汲み取ってくださる、直接制度を運用していただける担当者のご苦労にも心から感謝したい。そして、私たちも社会福祉事業者として、制度でカバーしきれない事情のある人たちのニードをも受け止め、どうにかして支援できるように努力しなければならぬと思う。

竹田市のと別府市内3ヶ所と湯布院にある教会をお訪ねした。それぞれのまちの教会が、時代を経て、それぞれの地域の人たちと生きてこられた歴史をお聞きした。観光のまちもメディアの情報だけではなく、そこに住む人たちの今日までの歩みを聞かせていただく、これからの自分たちの実践のための新たなヒントが与えられると思った。



小羊学園が支援している多くの方は、一般就労や福祉就労が難しく、生活介護として、日中の活動を提供していただき、活動や役割を通して、社会とのつながりを持ち、ひとり二人が「自分らしく輝ける」ために支援しているそれぞれの実践を浜松地区の通所施設に報告してもらいました。

【繋がる支援を目指して】
小羊デイケアホーム

支援員 内山千里

小羊デイケアホームは、北区根洗町にあり、聖隷クリストファー中高校が隣にあります。更には聖隷クリストファー大学も近く、学生が授業や実習として来園されることが多く、学生さんとの交流も頻繁です。4月からは、特別支援学校を卒業された利用者2名が新しく仲間入りをされました。

朝9時を過ぎると、自主通所の方が徐々に通所し、送迎車も戻ってくるので一気に賑やかな雰囲気になります。私

は、この時間が大好きです。今日も利用者さんと職員が元気に集い、顔を合わせる、ごく当たり前のことがとても嬉しいのです。

朝の会では、一人一人の名前が呼ばれ、ご本人が選択した活動を発表していきます。午前は4つの活動、午後は3つの活動があり、前日に自分で活動を選んで決めて頂いています。選択する事が難しい方は、職員がご本人の気持ちに寄り添いながら一緒に選択していきます。クッキー作り、創作活動、和紙すき、ミシン、音楽リズム、畑、アルミ缶潰し等を組み合わせ、月に1度は利用者ミーティングや調理実習、お楽しみ会や外出等も設けています。活動を選ぶ理由は個々で様々でしょう。車に乗りたい、音楽が聴ける、この人と一緒に活動したい等など。

ご本人の想いを大切にしながらも、活動に目的を持って取り組む事、活動を楽しむ事、やりがいを感じる場である事を意識して支援しています。

昼休みの休憩は、1時間程で長く設けています。のんびり昼寝をしたり、ゆったりと音楽を聴いたり、中には自分の役割があり掲示用の献立を書かれる方もいて、過ごし方は様々です。自分らしく過ごすひとときであり、職員も輪に入れてもらいながら楽しく過ごしています。

利用者個々に「役割」として手伝いをお願いしています。お弁当を配る方、食器を拭く方、食後の掃除を行う方と役

割はそれぞれに異なります。帰りの会では「手伝いの発表」の場を設け1日の振り返りを行っています。人に期待される事、理解して行動する事、取り組みが喜ばに繋がる事、認められることを感じながら皆さん役割を継続して下さいます。デイケアホームでの取り組みから、家庭に帰っても同じ手伝いを取り入れて頂いているご家庭もあります。家族からも助かっていると褒められると、とても表情が明るくなります。

今回、「自分らしく輝ける」について職員にも尋ねてみました。迷いなく、ひとり一人の頑張りを次々挙げる職員や、日々の支援の中に両者が笑顔でいることを大切にしている職員もいました。職員も、ひとり一人の輝きをしっかりと見つけられている事に嬉しさと誇りを感じます。開所当初のデイケアホームは、在宅生活をされている方の通所施設として数名の人数からのスタートでした。少

人数のメリットを活かし、家庭的な雰囲気をお大切にされていたことを強く感じます。今では、沢山の方が通う場となり、雰囲気が変わってもデイケアホームとして大切にしている事や、ひとり一人が輝ける生活を送る事を大切にしたいと感じます。玄関やホールには力作の貼り絵が飾られ、粉を混ぜて作り上げたクッキーが焼かれ、甘い香りを施設の外まで届けている日常に職員としても負けなように輝いていきたいと思えます。頑

張りも、個性も、デイケアホームの中だけにしておくのはもったいない！広がりのある生活を、デイケアから地域へと発信していきたいと思えます。



【ひとつひとつをはっきりと】

マルカート 主任 中西洋子

マルカートは、浜松市南区にある「アンサンブル江之島」という6階建ての建物の3階で活動を行っています。「アンサンブル江之島」は、浜松市所有の複合型福祉施設です。1階と6階が共有スペース、2階・4階・5階は他法人の事業所が使用しています。小羊学園は放課後等デイサービスのドルチェとマルカートが3階にあり相談支援事業所のアグネスみなみが1階を使用しています。

マルカートは、2005年(平成17

年)4月に開設され、今年で12年経ちました。定員は、20名で現在登録者は23名となっております。平均年齢は38歳、今年高等部を卒業された方から70歳を迎える方までが通所されています。

3つのグループで活動を行っています。それぞれのメンバーの特性や興味などに合わせたプログラムを考え日々の支援を行っています。おしぼりたたみ・畑・健康づくり・清掃活動・奉仕作業・リトミックなどです。開設当初からすると、加齢等により体力面の低下や歩行の不安定さ、障害の相違などに変化がみられる利用者さんも増えてきました。そうした人たちにも、意欲を大切にまた、今までに培った能力が生かされるよう、活動内容の変更や時間の短縮等の工夫をしています。

マルカートの代名詞の「らつきよう」作業においても、商品加工の参加が難しくなってきました。そのため、今年度は、収穫した生のままのらつきようを袋に詰めるより簡易な作業へ内容を変更しました。簡易とはいえ袋へ詰めるにも、微妙な力加減が必要です。当初は、袋を破けてしまうことも多々ありました。袋の種類を工夫し、繰り返し取り組む中で力の加減も出来るようになり、今では破くことなく詰められるようになってきました。1袋1キログラムの生らつきようを詰め終わると、高く掲げ「おーい」と嬉しそうに知らせてくれます。そうした

時の利用者さんは満足そうな表情で、きらきらと輝いています。



他に今年から始めたばかりですが、リトミックの活動を行っています。利用者さんが好んで聞いてきた曲などを流し、そのリズムに合わせて木琴や太鼓、タンバリンなどの楽器を鳴らしながら身体を揺らし、全身で行動表現をするプログラムです。時には声を出して歌うようなこともあります。1グループだけの活動として行っていました。他のグループの利用者さんも興味を示し参加したがる様子が見られています。これは予想外の驚きの反応でした。今後はグループの幅を広げて取り組んでいこうと計画しています。

マルカートは音楽用語で「ひとつひとつをはつきり」という意味です。これ

までに加え、これから利用者の皆さんひとり一人が奏でていく未来の人生においても、マルカートが、よりご本人らしくはつきりと輝ける場であることを願っています。また、そうなるために寄り添った支援を心がけて行きたいと思えます。

【変わらぬ日常と共感を】

オリーブの樹 サービス管理責任者

清川智彦

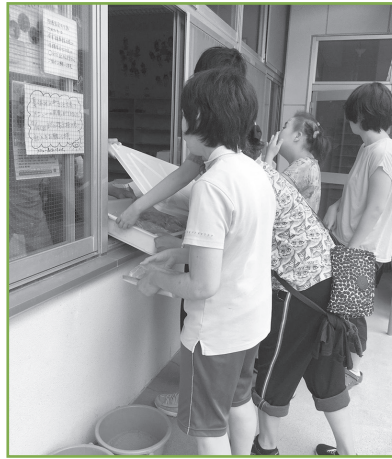
平成18年、浜北区尾野にオリーブの樹(生活介護・定員30名/登録利用者30名・就労継続支援B型・定員10名/登録利用者8名)が開所してから丸11年が過ぎました。その歴史は平成15年、オリーブの樹の前身となる支援センターわかぎの施設外作業所「工房わかぎ」から始まります。

当時の浜北にはある程度作業能力のある知的障害者が通所する施設はあっても重度の知的障害者が通所できる施設が無かったと聞いています。そんな特別支援学校の卒業生の進路先として工房わかぎが選ばれ、地域にお住いの2名の利用者を受け入れたことからオリーブの樹の歴史が始まったのです。2名だった利用者が開所時には6名になり、利用者の方の受入れと建物の増改築を繰り返し、平成26年には就労継続支援B型を併設。今では重度の知的障害の方から車いすの身体障害の方まで、利用者38名、支援員20名、人数規模として

は施設入所事業所とかわらないほどの事業所となっております。

そんな大所帯のオリーブの樹ですが、決して十分とは言えない手狭な施設環境の中で日々工夫しながら日中活動を提供しています。かつて少人数のころは、皆で同じ活動に取り組んでいましたが、現在は就労継続支援B型では工場の下請け作業、施設の清掃作業や草刈りの仕事を、生活介護ではリサイクル活動(空き缶回収などのリサイクル作業)、内職作業(創作活動や部品の組み立てなど工場の下請け作業)、パン工房(パンの製造販売)、畑作業(農作物の栽培販売)の4つのグループに分かれて活動しています。リサイクル作業では近隣の店舗等から空き缶を回収する、パン工房では地域の学童保育所から注文を受け販売・納品に出かけるなど活動を通じて地域住民と交流が持てるように意識しています。また、売り上げなど活動で得られた収入を一泊旅行の費用に充てるなど「頑張った活動に取り組めば、楽しい旅行が待っている」と、活動の成果が感じられるように取り組んでいます。複数ある活動班からその人に合った活動班に所属してもらい、班の中でその人が可能な作業種・役割を見つけれられるように粘り強く利用者の皆さんと関わり、時にプールで水遊び、お昼ご飯を食べながら毎日を送っています。

はじめは他の利用者と一緒に活動することが困難であった利用者の方が日々の関わりの中で少しずつお互いの距離を縮め、一緒に活動に参加できるようになり「作業みんなで頑張ったね」、昼食を一緒に食べて「おいしかったね」「旅行楽しかったね」とみんなで共感し、何気ない毎日を送っていきけることこそ大切にしていきたいと思っています。



社会福祉法人小羊学園 平成28年度 苦情受付のご報告

法人では各事業所に苦情受付担当者、解決責任者を設置し、サービス利用や施設運営に関わる苦情や要望・相談を受け、必要な措置を講じてきました。平成28年度に皆さまから頂きました苦情・要望件数をご報告します。

施設等に関する苦情	2件	利用者支援等に関する苦情	5件
施設等に関する要望	2件	利用者支援等に関する要望	3件

○皆さまから頂きました苦情・要望について、真摯に対応させて頂きましたが、至らぬ点もあったかと思えます。改めてサービス改善に努めていきます。

第6回 オリーブ祭り

日時：平成29年9月9日(土)
10:30~14:00

ところ：オリーブの樹

浜松市浜北区尾野462-2

催し物：模擬店・バザー・喫茶コーナー
授産製品販売・音楽演奏など

◇問合せ：オリーブの樹 担当：清川

TEL：053-582-3415



引き続き探しています！

浜松中区・南区の

土地情報下さい

小羊学園では、近い将来に浜松市中・南エリアの拠点整備を検討し始めたところです。しかし、施設整備の財源が厳しい現状ですので、土地を購入できるゆとりがありません。読者の方やお知り合いで、休閑地等を無償で貸与くださる方がおられましたら、ぜひご紹介下さい。

・候補地

浜松市中区・南区

・土地条件

500坪〜1000坪程度

宅地／農地／雑種地問わず

隣接して6m道路

電線・水道管近くにあれば◎

・貸与条件

可能であれば無償

貸与期間、固定資産税免除

建物借入金償還後に土地買い上げ交渉可能

○窓口

小羊学園法人本部 稲松・池谷

053-584-3337



編集後記

毎日厳しい暑さが続き「うんざり感」は否めないが、夏になると涼を求めたりイベントで心ウキウキすることも多い。支援センターわかぎでは毎年、地域との繋がりを大事にしたいと願い、8月21日に行われる地元「平口花火大会」に花火奉納している。打ち上げ工程表が届くと「何時何分の何発目がわかぎの花火だよ」と盛り上がる。当日はみんなが屋上で花火観覧を楽しみにしている。皆様もウキウキしながら夏を乗り越えましょう。

猛暑を超えて酷暑が予測される今夏。水分・栄養補給をしっかりと、どうぞお身体ご自愛ください。

(F)

小羊学園を支える会

2017年度 寄付金報告

6月 受付分	331,970円 (22件)
累計	587,970円 (44件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座	00800-8-107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金	0107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。

下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)

小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337